



謎解きこどもウォークラリー in 松南

●「鳥の形の物体」→正解：偉い人のお墓（平田里古墳）

古墳時代には、集落をまとめた力のあるリーダー（豪族）が亡くなる

と、古墳という丘の形の大きなお墓を作って葬りました。この鳥の形の物体は埴輪

といって、日本全国では、人や家、動物などいろいろな形の埴輪が発見されています。古墳の上にたくさん並べて、儀式などに使ったと考えられています。



●「あぶない踏切」→正解：地下に道が通る

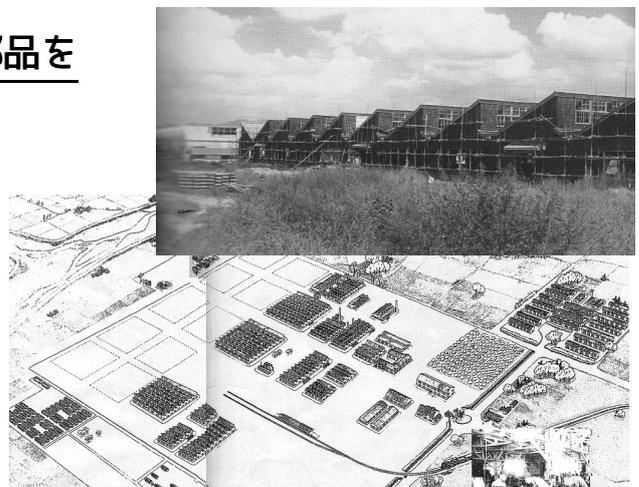
線路の地下を掘って、人や自転車、自動車が別々に通れる道路を建設する計画があります。道路が完成することで、人や自動車が安全に通行でき、渋滞も減ることが期待されます。（いつ完成するか、正確な時期は未定です。）

●「まっすぐな道」→正解：エンジンの部品を

作る工場（石川島芝浦タービン）

まっすぐな線路の終点には、戦争中に作られた、エンジンなどの部品を作る石川島芝浦タービンという会社の工場がありました。今は自衛隊松本駐屯地のある場所です。線路は篠ノ井線と工場をつなぎ、

工場で作る部品の材料や、完成した部品を運ぶために使われました。部品は、戦闘機のエンジンに使われたとも推測されています。



（「石川島芝浦機械50年史」から）

●「とぎれた線路」→正解：工場で使う材料や製品を運ぶ

この線路は、篠ノ井線から日本ステンレスという工場（ポイント「大きな工場」）に引き込まれた線路でした。日本ステンレスは金属の板などを加工する工場です。線路を使って材料や製品を運んでいたと言われています。製品は、戦闘機の胴体に使われていたとも推測されています。

（右の写真は、今から約60年前の線路の様子で、映っている工場は日穀製粉の工場です。）



引込線（日穀製粉株式会社提供）

⑤問題の正解

●「大きな工場」→正解：近くにたくさん人がいた

戦争中の1942年、日本ステンレスという会社の工場がここへやってきました。当時、近くにたくさんあの人は住んでいませんでしたが、畑や荒地ばかりだったので、工場を作る土地がありました。また、工場で作る製品やその材料を運ぶための鉄道が近くにあり、工場で使う水が地下から湧せいひんいていたので、工場を作るのに便利べんりでした。工場の従業員じゅうぎょういんが近くに住むために、新しい住居もたくさん建設されました。工場ができたことをきっかけに、だんだんと人がたくさん住むまちになっていきました。

●「消えた学校？」→正解：別の場所に移動した（移転）

明治から大正の時代に、この場所には「松本市立尋常高等小学校井川部校」という、今でいう小学校と中学校が一緒になった学校がありました。1933年(昭和8年)に鎌田部校という学校を新しく作るため、井川部校の校舎を移転して鎌田部校と一緒にになりました。鎌田部校は、今の鎌田小学校の場所いどうにありました。

●「旧日本軍」→正解：信州大学

今の信州大学 旭 キャンパスの場所に、「陸軍歩兵第五十連隊」という部隊がありました。今でも信州大学の中には、部隊が使っていた赤いレンガでできた倉庫れんたいが残っています。なお、自衛隊松本駐屯地では、旧日本軍や部隊に関する資料が展示されています。

●「消えた飛行場」→正解：有名な飛行士（長谷川 清登さん）

長谷川 清登はせがわ けさとさんは、日本で最初に一等飛行機操縦士の試験に合格した飛行士です。長谷川さんに使ってもらおうと、資産家や議員などいろいろな人（有志）が集まってお金を出し合い、飛行場の土地を買いました。長谷川飛行場と呼ばれ、日本で初めての個人のための飛行場とされています。

※地区としては鎌田地区かまだちく いちに位置します。

●「小学校」→正解：競輪場（松本市競輪場）

1949年、宮田製作所という工場だった土地の一部を使って、松本市競輪場けいりんじょうが開設されました。しかし、経営がうまくいかず4年せいざくしょで廃止されました。その後はしばらく空き地のままでしたが、1970年に開明小学校が開校しました。



宮田東にあった松本競輪場（松本市提供）